

留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからこんなことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかだと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちの留学体験談を紹介します。



協定校等の具体的な留学先



留学は他国の言語や文化を学ぶことができるだけでなく、自分や自国の文化としっかり向き合える貴重な機会を提供してくれます。そのため国際コミュニケーション学科では2回生の後期から留学することを推奨しています。期間は長期留学(9~12ヵ月)・中期留学(3~6ヵ月)・短期語学研修(3~8週間)があり、英語圏だけでなく、ドイツ、フランス、中国、韓国、モンゴルなど履修した外国語科目に合わせて留学先を選ぶことができます。また協定校以外への認定留学制度もありますので、ぜひ自分に適した留学先を見つけて異文化を体験してみてください。



自分の引き出しを増やせる時間

私はビクトリア大学付属の語学学校に約8か月間留学しました。ビクトリアはカナダの西部に位置しており、温暖な気候で過ごしやすく、街も人もとても穏やかです。そんなカナダでの留学生活で私は多角的な視点で物事を考える力を身に付けました。ホームステイをしていたのですが、ある日ホストマザーに私が帰宅して何も言わずにすぐ入室に行くことを注意されました。彼女は家で塾を開いており、私の帰宅時間はちょうど生徒が来ていて学習中でした。だからこそ、それを知っていた私は邪魔をしかなくて、彼女たちに声をかけずに部屋に行っていました。しかしその行動は彼女を不快にさせていました。声をかけない方が失礼だったのです。最善の行動をとっていたつもりが正反対の行動をしていたと知りショックを受けましたが、自分の考え方に囚われずもっと様々な見方をしなければいけないことに気が付きました。留学中にこうした新しい見方をホストファミリーや語学学校で出会った友人との交流からたくさん学びました。多文化社会のカナダで過ごした時間が私に貴重な経験を与えてくれました。

北村 三咲さん ● 4回生 ● 派遣留学

欲張りで行こう!

私が留学していたコロンビアカレッジには、さまざまな国から留学生がたくさん集まっています。校内イベントなども豊富にあり、留学生にとって過ごしやすいいずれの大学です。徒歩圏内にはアートが盛んなダウンタウンがあって、ギャラリーやアトリエも見ごたえがあります。私は留学するにあたって、やりたいと思ったことはとにかく全部やってみようという姿勢で臨みました。ドラムのマーチングバンドに入ったり、現地ですぐの友達と旅行に行ったり、積極的に動きました。そのための時間を作るために、徹夜で授業の準備をすることもよくありました。初めのうちは、マーチングバンドに入っても音楽に関する用語などがうまく聞き取れず、中間の会話に必死でついていくことしかできませんでした。それでも、根気強く練習に参加しているうちに、気づけばコーチの言葉をすんなりと理解できるようになり、自然と仲間の会話にも加わることができるようになっていました。彼らの冗談みだれのマシニングトークは今でも忘れられません。勉強と課外活動の両立を図ったことで、結果的に授業を理解するのにも楽になりました。

荻田 桃子さん ● 4回生 ● 交換留学

大切なのは語学力より勇氣

私は韓国に一年間交換留学をしていました。この限られた留学期間を無駄にしたいことはありませんでしたので、できるだけ色々なところに行って、色々なものを食べて、たくさんの人と出会いたいと考えていました。また、私が通っていた光云大学は、ソウルの中心地から地下鉄であれば20分ほどの距離でアクセスしやすいので、積極的に外に出て行動しました。その結果、韓国人の「情」と、自分で行動することの大切さを知りました。韓国人の人は、最初はかなり不愛想なのですが、仲良くなると、徹底して面倒を見てくれます。日本人としては少し近すぎるぐらいの付き合いかたに、初めは戸惑いましたが、それが韓国人の仲間に対する「情」であるとかかりやすくなりましたし、やはりそのような濃厚な友達付き合いの中で語学力も飛躍的に伸びました。友人関係を築くことは、特に外国人にとって簡単なことではありません。しかし、待っているだけでは誰も来てくれるわけもなく、何も成長することがありませんので、自ら動いて自分の存在をアピールすることが何よりも大切です。勇氣があることで、そうすることが留学先で自分が成長するための一番の近道だと思います。

北野 奈津子さん ● 4回生 ● 交換留学

限られた期間だからこそ精一杯に

私が留学していたリーズ大学の周辺には、大きなショッピングセンターやたくさんのレストランがあり、とても賑やかで、学生にとって過ごしやすい環境といえます。バスの中で乗客たちが、「Cheers!」とお礼を言って降りていく様子など、他の英語圏とは違った文化や表現を学ぶことができる機会が何度もありました。私は現地の学生とのコミュニケーションの輪を広げたいと思い、自炊生活ではなく食堂のある寮での暮らしを選びました。メニューは毎朝イングリッシュブレックファーストで、週末にはフィッシュ&チップスが出るなど、イギリスらしい食事を楽しむことができました。ただ、最初の頃は、フラットメイトがみんなイギリス人の学生であったため、食事中に会話についていくのが難しい状況でした。それでも、これほどまでに現地の学生に囲まれるような環境は他にないと考え直して、常に彼女たちと積極的に接するように心がけました。そうしているうちに、日曜にはみんなで映画を観るようになり、帰国前にはパブやカラオケで盛り上がり一緒に楽しめるほど仲良くなることができました。誕生日にはサプライズのケーキを用意してもらい、それらのことは私にとってかけがえのない思い出となっています。

伊東 美紗貴さん ● 4回生 ● 派遣留学

現地の文化に染まる

私はドイツの南に位置するアウクスブルクに約11か月間留学しました。アウクスブルクはドイツ最古の街の一つであり、建築物、街並みを見ていてもその歴史を感じられます。そんな伝統の中に建っているのがアウクスブルク大学であり、私はここで自分を変えることができました。ドイツ人は議論を重要視し、授業の中でもその姿勢が求められます。私は留学する前には、授業中に発言することに消極的でしたが、ドイツで授業に参加する回数を重ねるにつれて自分から積極的に意見を述べて他の学生と意見交換をしたいと思うようになっていました。今までの自分に足りなかったことはこのような勉強に対する意欲と姿勢だったのだと、この留学生活で気づきました。意識が変わることで行動も変わります。いい感じに現地の文化に染まることで、授業以外の場でも積極的に行動するようになり、多くの友人を作ることができましたし、様々な行事やお祭りなども彼らと参加できたことで本当に無二の思い出となりました。

板谷 恵太郎さん ● 4回生 ● 交換留学

お互いを高めあう仲間との出会い

私が1年間過ごしたリールという街はパリから新幹線に乗って約2時間、ベルギーとも非常に近いフランスの北部に位置しています。その街のリール政治学院という学校で私は主に欧州の政治について学びました。リール政治学院には、将来、経営者や政治家として活躍したいという学生が多く、留学生の仲間も学生でありながらすでに起業しているなど非常に意識の高い人たちがばかりでした。毎週出される課題や、慣れないフランス語の授業に自分の無力さを感じて泣きながら帰宅した日もたくさんありましたが、その度にたくさんの友人が手を差し伸べてくれました。課題がない日は一緒にテーマパークに行ったり、ベルギーから近いということもありビールを飲みに行ったり、踊ったり、笑ったり、私の留学生活は彼らなしには語ることができません。

帰国してからは、周りの友人や家族からは、「いい意味で変わったね」と言われます。それはきっと留学中に、仲間たちと切磋琢磨して過ごした経験があるからだだと思いますし、その経験は私にとってかけがえのない財産となっています。

松下 奏末さん ● 4回生 ● 交換留学



草原だけじゃない!

私たちは、9月から12月の4ヶ月間首都ウランバートルにあるモンゴル国立大学に留学しました。英語圏以外の国からの留学生が多く、授業中はもちろん、それ以外の時間でもつたないモンゴル語で会話しなければならず、最初の頃は苦勞しました。しかし、授業回数を重ねていくうちに考えていることを伝えられるようになり、語学力の向上を実感することができました。到着して1ヶ月後には雪が降り、マイナス30度という気温も体験しましたが、パールという暖房器具のおかげで室内では半袖でも快適に過ごせました。また物価が安く、普通の飲食店では300円から500円でさまざまな国の料理を楽しめます。モンゴルでの一番の思い出は、韓国人の友人とサインチャンドという街を旅行したことです。ウランバートルから400キロ離れたところに位置し、移動には寝台列車を利用しました。砂漠の中にあるお寺を訪ねて、綺麗な景色を見たり、ゲルに住んでいる人の手作り料理を食べたりしました。夜空は地平線ギリギリまで星でいっぱいになり、今まで見たこともないほど美しい光景でした。留学してみれば、「モンゴル=草原」というイメージはほんの一面でしかないことがわかったと思います。

西尾 菜奈さん／安田 有希さん ● 3回生 ● 交換留学



ピンチはチャンス—楽しいばかりでないのが留学

私は台湾の台中市というところにある中興大学に約5か月間、留学しました。台湾は治安が良く安心して生活できます。私にとって初めての海外でもわくわくした気持ちで出発しましたが、すぐに問題に直面することになりました。受講できるはずであった中国語の授業は開講されておらず、その他の授業も予想に反して登録すらできず、現地の留学生担当のオフィスに交渉しても何も変わらないという状況でした。予想外のことがばかりで、いら立ちや焦りを感じ、始めは何をすべきか途方に暮れました。しかし、私は負けず嫌いな性格であるため、せつかくの留学生生活を何もできずに終わらせたくないという気持ちで切り替えて、自分ができることから始めることにしました。現地の学生が集まる日本語サークルに飛び入り参加し、そこで多くの人たちと知り合うことで自分専属の中国語教師を見つけました。そして住んでいた学生寮では、ヨーロッパからの留学生とも親しくなり、英語を鍛えることもできました。最初は絶望的だった留学生活も、行動力とコミュニケーション力で素晴らしい経験に変えることができました。

松井 美穂さん ● 4回生 ● 交換留学